

校長室だより(No.33)

令和3年11月25日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

高病原性鳥インフルエンザ

姫路市の養鶏場で今シーズン県内初、国内4例目の高病原性鳥インフルエンザと疑われるニワトリが確認されました。

市内の小学校で唯一動物(クジャク)を飼育している黒井小学校としましては、心配をしているところです。野鳥を介して感染することからクジャク舎の近くにやってくる野鳥とは次のように接したいと考えています。

- 同じ場所でたくさんの野鳥などが死亡している場合には、すぐに関係機関に連絡します。
- 死亡した野鳥などを片付ける際には、素手で直接接触らず、教職員が扱います。
- 普段から野鳥など野生動物の排泄物等に触れた後には、手指消毒、手洗いやうがいを励行します。
- 野鳥の糞がウイルスを含んでいる場合を考えて、野鳥に近づきすぎないようにします。特に、靴で糞を踏まないよう十分注意します。必要に応じて靴の裏側を消毒します。
- 不必要に野鳥を追い立てたり、つかまえようとしたりすることを避けます。

鳥インフルエンザウイルスは、野鳥観察など通常の接し方では、ヒトに感染しないと考えられています。新型コロナウイルス感染症と同じく正しい情報に基づいた、冷静な行動をしたいと考えます。

本校では、2年生がクジャクの世話を担当しています。子どもたちはクジャクとふれあうことにより、生命の尊さを学び、生き物としての鳥類を学ぶことができます。また、クジャクは学校の飼育動物としては珍しく性格がやさしく、美しい姿から地域の人からもかわいがられています。

今回疑いのあるニワトリが確認されました高病原性鳥インフルエンザは、鳥インフルエンザウイルスの中でも、特に鶏に病気を起こす力が強い種類のウイルスにより起こる病気です。飼育している鳥は、このウイルスに感染した「水鳥」や「水鳥の生活水」とふれることで、この病気にかかりますが、必要以上にこの病気にかかることを心配する必要はないということです。鳥が食欲をなくし、体を膨らませてうずくまっている時は、何らかの病気にかかっている場合が多いと言われています。このウイルスに感染した場合は、多くの場合、元気をなくし、すぐに死亡してしまいます。餌も水も足りていて、多くの鳥が次々と死ぬ場合は、この病気かもと疑ったほうがよいと思います。元気にしている場合は心配する必要はないということです。

これまでも、2年生を中心に続けていることですが、次のことに気を付けて世話をしたいと思います。

- 毎日鶏たちの糞を掃除して、新鮮な水と餌を与えます。
- 普段からクジャクの様子をよく見て、「元気であること」、「弱っていないこと」、「怪我をしていないこと」などを確かめます。
- クジャク舎を暖かい環境に保ち、風通しや日当たりにも注意します。
- 世話をしてくれる子どもたちには、日頃から、掃除などの作業の後での手指消毒、手洗いやうがいの習慣をつけさせます。

世話をしている2年生は、今週末の音楽会でも「クジャクのチョコとパタ」をテーマにしたステージを発表します。子どもたちがクジャクと共に安全に過ごせるようにしていきたいと考えています。